

市民の立場に立った市政とは？その2

前回に続いて市長選に向けて本市の問題点などをお知らせしていきたいと思います。今回は、人口問題、特に市の将来を左右する、子供たちの人口問題を取り上げます。

2. このまま今のスピードで、若い世代が減少していったら、沼田市はどうなる？

2050年には子供がいなくなる

沼田市の14歳以下の子供たちの人口は、ピーク時の1955(昭30)年には、15,415人いましたが、50年後に市町村合併をしたのに、2005(H17)年には、7,727人と半減し、2010(H22)年の国勢調査では、6,849人になっています。もしこのまま年間175人減少すると、10年後には約5,000人、20年後には約3,300人、40年後の2050(H62)年には、計算上は、0人になってしまいます。

今から本気で取り組まないと、沼田市の将来は、高齢者だけの街になってしまいます。



子供を産んで育てることに大きな支援を

沼田市は、このまま自民党型の政策を続けていくと、本市の特徴である農業や林業など第1次産業が衰退し、若い労働力も減少していることから、企業などの誘致もなかなかうまくいきません。企業は若くて安い労働力を求めて、中国や東南アジアに進出していきます。観光業に一縷の望みをかけているようですが、それさえも若い労働力がなければ、将来成り立っていきません。

今不況の中、共稼ぎ家庭が増えているので、保育園の需要が高まっています。子供の数の減少によって、保育園に入れにくいという子供は少なくなっていますが、はいれば高い保育料を払わなければなりません。市は、国の基準よりも市費を負担して安くしてるといいますが、奥さんのパート料を全部取られてしまうぐらいの家庭もあります。

保育園や幼稚園の保育料を無料化するとともに、学校給食費の無料化や子供を産んだ時の祝い金、子育て世代への住宅取得への支援金など、全国の自治体ですでに実施されています。それどころか沼田(右へ続く)

子供を守ろう！放射能学習会へ参加を

日時：1月25日 午後1時30分 沼田中央公民館3F
講師：振津かつみ医師 *申し込み不要・参加料無料

生健会活動にご協力を！

先日は、生活と健康を守る会からのお願いで、生活用品のご協力をたくさんの方からいただきまして、大変ありがとうございました。会の活動費ねん出のため行っている、農産物栽培・販売にさらにご協力ください。生活と健康を守る会の運用農地で栽培し、収穫したお米をぜひ購入してください。新治産コシヒカリです。5Kg以上の単位でお願いします。5Kg1,500円です。玄米ですが、精米も致します。(手数料100円から)

ご希望の方は、生健会のおおつぼ事務局長まで。
090-8309-5855までご連絡ください。



年齢3区分別の人口割合

年次	0~14歳		15~64歳		65歳以上	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
1955	15,415	36.0	25,281	59.0	2,175	5.1
2005	7,727	14.5	32,487	61.1	12,909	24.3
2010	6,849	13.5	30,254	59.5	13,725	27.0

出生・死亡

年次	全人口	出生		死亡	
	人数	人数	出生率	人数	死亡率
2000	46,339人	465	10.4	411	8.9
2005	53,177	459	8.6	582	10.9
2008	—	433	8.3	580	11.2
2012	51,265	380	—	—	—

市は、せっかく実施していた3子以降の出産祝い金を数年前に財政が厳しいからと廃止してしまいました。削るところが違うのではないのでしょうか。

2014年1月26日 688
いのさんニュース
発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519
井之川博幸議員活動地域版部内資料